京城新報

●新聞料 一部金五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●[illegible] 十月十七日
發行兼編輯人 印刷人 山下英爾
京城西署西小門通 發行所 京城新報社 電話六六三

外國武官の觀たる大演習

▲解らぬ一點は解つた

私は日本軍が何故露軍に勝たか、分つて分らぬ點が一つありました、それは日本軍の士氣が何時も／＼壓倒的の勢力を有つ事でありましたが、今回親しく栃木地方を旅行して成程と首肯いたのです、武士道といひますが、目に一丁字も無いやうな農民迄が眞に本氣になつて自弁し生計に餘裕のあるものは職業を擲ち寢食を忘るゝやうな有様で、如何に大演習に參加せる軍隊を歡迎すべきかと骨を折つて居るのを面のあたり目撃し、軍隊として日本人が偉大なる活力を發揮する所以を理解しました、私は世界の軍事的國民といふは日本人の事であらうと思ひます、親切、眞面目、一生懸命といふ美德が到る處に見られるのは如何にも嬉しい

▲斥候の動作は感服

本日(十五日)は東西兩軍が動亂の有様で、まだ活動期に入らぬ目ざましい出來事もありませぬが、今朝南軍の斥候が太平山附近の山の邊でポン／＼と衝突するのを瞥見して先づ第一に熱心、第二機敏大膽といふ點が至極感服しました、今朝は丁度八時頃から西軍の斥候がソロ／＼勇ましげに霧靄の中から出掛けて來た所は滿洲の野に活動した日本軍の油繪を其まゝに見る心地がして、頗る興湧きかへる感がありました、一個分隊ばかりの歩兵の下士斥候は水深脛を没する程の長野川の上流をボチャ／＼と惜し氣もなく踏み入つて、一氣に目的地へと急ぐ有様でありました、前年佛國の大演習の時に下士以下の斥候が將校の影が見えなかつたら水の中などへ入らなかつたのを見ましたが、今朝は可なりの寒天に、滿身迄も浮くやうな水の中をザブ／＼と徒歩するなどは實に美事であります

此下士斥候と相對して一個の騎兵の將校斥候が居りましたが之れが鶴着山の麓に身を潜めて巧みに地物を利用して、大膽にも敵斥候を其忍び得べき最近距離に引付け十二分に其任務を果たして置いて引き上げた道理は思ふ、其斥候長は何とか言はれる騎兵中尉の方ですが、遺憾ながら名前が分らない、此熱心と機敏と大膽とがあつて世界を驚かす日本軍の實力が發揮せらるゝ譯でせう

▲私共の見たいもの

今度の御演習は日露戰爭より得たる新らしき經驗を利用し活用せらるゝ事ですから改良せられたる武器の効果如何、或は輕氣球隊、野戰電信隊等特科隊の活動なども、定めて美事であらうと思ふて居りますが私共の何よりも樂しみなのは、右の如き機械的進歩以外の點、即ち日本軍人の精神氣魄といふものが、此演習といふものゝ間に如何に發揮せらるゝか、それが一番拜見したいのです、八洲の秋色酣なる折柄、此盛觀に對して私共迄が意氣轉々剛ですよ明日(十六日)から南軍もいよ／＼衝突、一つ御遠慮の無い所を日々申上げて見ませう

滿洲の麻

人類衣服の原料として麻糸の使用は之れを棉に比較して其源因は遠きにあるが如し、抑世界最古文明の唯一遺蹟として今日猶ほナイル河畔に屹立せるピラミツト内に發掘せる木乃伊は、麻布を以て被はるゝを見れば、其耕作及び製造方法の既に紀元前數千年の頃にありて知られたるを察すべし。

支那本土及滿洲に於ける麻耕作の歴史は遼平として考ふべからざるも兎に角三代の昔にあるが如し今日に至りては清國重要農産物の一として、各省到る處殆んど産出を見ざるなき有様なり、本土に於ける重なる産地は宜昌、漢口、九江、蕪湖、鎭江、福州、厦門、汕頭、瓊州等の附近にして、又滿洲に於ては奉天省の東北及び吉林省を以て主要産地となす、其中城廠、葦子谷及び蘇陵衛地方に産するものを針線麻と稱して良質とし、老城、海龍城及び吉林府附近に産するものを包麻と呼び品質稍劣る、此三種を總稱して線麻と名く、又奉天より遼陽に至る遼河流域内の産は品質下等なり俗稱之れを[illegible]と云ふ。

統計の據るべきなくして其産出額を知るに苦むと雖、毎年日本及支那本土に向け輸出せらるゝもの略一百萬斤に達し、滿洲に於て消費さるゝものは此四倍位なるべしとは某業の老舗の談なれば略五百萬斤位なるべし。

耕作の方法は河水に近き濕潤の地を擇みて種子を播くものにして大概清暦四月清明の節前後を以て下種の季節となす、肥料は人糞豆粕及牛糞等を之を使用し此等の缺乏せる時は豆粕を用ゆるなり、大抵は種子を下播する十日以前程に畦を作りて一回之れを施すのみ、而して麻苗の發長稍五寸に達せる頃、約數寸を隔てゝ其剩餘を拔き去り雜草を取り、以て日光の射光に便にし肥料の吸收を專らにせしめて、苗子の生長を助く此の如き事數回にして清暦七八月の頃に至り、麻實の成熟するを俟て苅入に着手するものとす。

其製造の方法は極めて單純なるものにして大抵は農家自身の手によりて製造されて直に市場に出るなり、其手數たるや既に收穫して農家の庭園に運び入れたる後、其莖の上部は葉及び實子と共に皆除去し莖を束ねて水中に侵す事大抵一週間乃至十日に至る、其能く柔軟となるを待ちて之れを水中より取り上げ、再び出來得る限りの清水を以て洗滌して外皮を剝ぎ木槌を以て叩きて扁平となす、而して後更に太陽に曝して乾燥せしむ、其包裝の如きも殆んど之れを要せず只不用粗惡の剩餘部分を用ひて束ねて梱となす、一梱の重量も一定するなくして、小は五六十斤位より大は百斤以上に至り間々二百斤を出入するに至る。

現在に於ける耕作及び製造の方法甚だ幼稚なるを以て未だ大に精巧織物の原料として使用せらるゝに至らず、良質を以て稱せらるゝ線麻中の一等品の如きは直に緯糸として需用せらるれども其質の下れる物に至つては細繩、釣糸、漁網及太綱等に向て使用さるゝなり

日本へ輸出を見るに至りたる事は極めて近年の事に屬するを以て、未だ統計上の注意を惹くに至らずと雖、將來滿洲に於ける農事の進歩と製法の改良を得て本邦製麻事業の原料として能く需用に適合するに至らば、其發達や期して待つべきなり、蓋し之れ又將來に於ける日滿貿易重要品として當業者の輕々に看過すべからざる農産物なり

滿洲金融一班
(四十年上半期に於ける)

▲銀行貸出と割引 正金銀行は一般貸出を目的とするものにあらざるが爲め、大連支店の如きは貸出甚だ少きも、各地の支店及出張所に在りては土地の状況に應じ、需要に應じつゝあり則ち滿洲全體に於ける本年上半期貸出高は六百二十五万圓なり又割引高は未だ多きに上らず本年上半期の割引高は二百五十四万圓とす

▲銀行預金 預金は各地を通じ漸次増加の傾向を見るも、定期預金の増助か當座預金の増加に伴はざるは、土地の状況の然らしむる所にして止むを得ざるものなり、上半期の當座預金總高は九百四十万圓にして定期預金は百十一万圓なり

▲銀行爲替 正金銀行の各支店各出張所の爲替受入高は

内地向	九百四十六萬圓
清國各地向	一千四百五十四萬圓
歐米各國向	一百六萬圓
計	二千五百六萬圓

にして爲替振出高は

内地振出	七百三十一萬圓
清國各地振出	一千二十萬圓
歐米各國振出	九十六萬圓
計	一千七百四十七萬圓

即ち六百五十九萬圓の受入超過を示す、内地との取引にありて其額最も多きは大阪、神戸にして次を東京とし、其次を長崎とす

▲郵便貯金 郵便貯金は昨年以來漸次増加しつゝありと雖も、拂戻に於ても亦増加を爲しつゝあり、本年上半期の受入高は五十七萬圓にして、拂戻高は三十七萬圓とす、

▲郵便爲替 郵便貯金の未だ注目するに足らざるに反し、郵便爲替に至ては大に見るべきものあり、即ち滿洲各地の郵便局の取扱高を示せば

	受入高	拂出高
一月	七九六、七三三	一九六、二九六
二月	七三五、八〇三	一四〇、八三三
三月	一、三九三、〇三三	二九三、二七〇
四月	六四四、七五六	五二八、七二三
五月	九七〇、五六四	二九八、二六四
六月	八一九、三二四	三〇四、五六九
計	五、三五一、三三五	一、八四四、九九七
口計	二一、〇八五	五〇、一三三

即ち大體に於て滿洲在留の同胞は、半年に約五百萬圓を内地に向け送金するものにして、其一口の平均は約二十五圓前後とす、又何等かの原因により内地より約百八十万圓の送金を受くるものにして其一口の平均は約三十圓に當るを見る

京釜鐵道の釜山設備

統監府鐵道管理局は京釜鐵道の建設工事を繼承して頻りに草梁と釜山居留地との連絡工事を急ぎつゝあるが天候及び土砂採取地等の好都合なりしと受負土木業者の勤勉に依り案外の進捗を遂げ居れり右につき京釜鐵道管理局にては來年四月一日を期して本營業開始の目論見あり就ては應急の準備として假停車場を建築すべく既に設計製圖等も終りたるを以て之が工事を競爭入札に附して受け負はしむべき都合なり尚は鐵道當局にては税關工事の落成にて水際線の著しく擴張すると一方には長距離線に依る連絡貨物吸取上の政策實行の上に於て自ら此の呑吐的關門には大々的施設を要すべきを以て早晩倉庫、停車場等の大建築を見るべく殊に永久的築造に係る停車場には樓上に「ホテル」を設け之を公會堂として旅客其他の希望に依りて廣く供用し料理の如きも和洋兩辨として一般の利便を圖るべく其此等の總費額は無慮百萬圓を出づべしとの説あり吾人は之が一片の説話に終らず早晩事實として表現の機會あらんことを切に期待するものなり

仁川勞役賃銀(二)
(仁川商業會議所調査)

想ふに右職人力役者、日稼人、職工等に就き其賃銀の外特殊の條件を附帶すりものを調査するに左の如し

(一)就業上の時間外に定時間外の割増金 就業に付特に時間を定め又定時間外の勤勞に對し割増賃金を支給することに一般定められたる者は精米所及鐵工所の職工となす

(イ)精米所職工 就業時間午前六時より午後五時まで十一時間を以て定時間とし定時間外の勤勞に對しては一時間毎に賃金の二割を増すの定なりと云ふ

(ロ)鐵工所職工 就業時間午前七時より午後五時迄の十時間を以て定時間とし定時間外の勤勞に對しては割増金五割を給すると云ふ

(二)出役割增賃金 定時間外の出役に對し特に割増金を給するものは右の如しと雖此他尚は單に出役に就て特に賃錢を一定したるものあり即ち理髪職これなり當港に於ける理髪組合の定めたる賃金左の如し

一等散髪料 二十五錢
普通 十五錢
髭剃 十錢 並 十錢
出役
散髪料 四十五錢
髭剃 二十五錢

(三)勞働の分量に依り賃金を異にするものは左の如し

(イ)區域に依り賃金を異にするもの即ち出役する區域の遠近に依り賃金に差異あるものにして結局勞働の分量に歸着するものなり此種のものは多く人力車夫の賃金なり

(ロ)仕事の分量に依り賃金を異にするもの 素麵製造所に於ける素麵括りの如きこれなりこは一般に日給又は月給を以て賃錢を契約することなく其把束したる素麵の分量に依りて賃錢を定む即ち一箱に付五錢の賃金なるを以て一日の把束量十箱なるときは五十錢を得るが如し

(四)其他特殊の附帶條件あるもの 以上の外當事者に於て賃錢又は就業時間其他に付特殊の條件を附帶するもの有るときは特別の私約を以て之を設定することあり即ち被傭人に於て辨當を持參し又は雇主に於て食事を供するの定めを爲すか如き又は竣成を取急ぐ等のために特に就業時間を約するか如き又は成效に對し請負的賃金を約するか如きこれなり

牛庵雜記(三)
黒法師

明治四十年十一月十五日記事

(舊十月十日)維摩忌なり。

維摩忌や誰肖せてきる裟

午前、高處より望めば霞城中に棚引きて、風色米家の畫點を想はしむ。

小六月立舞ふ丘、木立かな

午後、太皇帝の鹵簿を拜す。

繪具さす木々の日南や歸り花

夜、惇德殿附近を過ぐ。

後庭や冬木疎らに月白し

夜半、雨となりて軒の點滴數次夢を破る。

暖かに雨となりけり小夜時雨

文苑

黄菊白菊(下)
金子雨翠

菊作る畑にとなりて柿林
白菊に天上の星の戀もあらん
菊の香や長生殿の長廊下
家々に國旗立てたり菊の秋
菊畑のぐるりを守る鷄頭かな
野道來てそこに川あり菊の宿
亂れ咲く菊や露營の枕上
黄菊白菊錦鷄遊ぶ門の内
菊白し酒ひやゝかに夜を寒し
一本の菊に草庵凡ならず

冬雜詠
牛人

門前の小家訪ふ十夜哉
あどさして小坊主と遊る十夜哉
賽錢を分つ十夜の酒錢哉
甘酒も更けし十夜の功德かや
北嵯峨へ行ゆけ寺の十夜哉
章臺や更けて十夜の人通り
學寮や十夜の柿の食あらし

小説 紋のみだれ(十)
永井櫻園

芝區田村町の割烹店常盤樓の階上の一室で、相對して密に語らひながら酒酌み交す年若き男女がある。

彼是十一時半にもならうと云ふ時刻で、大低な客は悉く歸へて、表座敷の方で十二分に酩酊した三四人の一組が、呂律も廻らぬ舌で、愚にも附かない事を、仰々しく話して居る外、寂然閑として電燈の光のみ我物顔に輝いて居る。



彼の年若き一組は、大きな聲一つ出さず極めて物靜に話して居るので、女中なども氣を利かして寄附かぬやうな樣子である。男はビールの飲半をグッと空けたが

「れゝ、彌張寒い時は日本酒の燗を爲た方が宜い、ビールは馬鹿に冷たい。」

「では日本酒の熱いのが來てます、お酌爲ませう。」

と、酌をしてやる。男はそれをグッと飲で

「しかし能く來て下すつた、僕は迚も師匠も嚴しく云ふであろうし、まだ見ず知らずの僕が呼んだからッて貴方も來て下れはせんと思つて居つた。斯麽滿足な事はない。」

「眞箇師匠も一人でお客さんと料理店なんかに往つてはならない、往くのなら友達でも連れて往けと、なか／＼嚴しく仰やるんですよ。ですけれど是非會つて話したい事があるから一人でと云ふ事でしたから、お斷り爲やうかとも思つたんですが、またお目に觸つて見たいやうな氣がして、師匠にも誰にも内密で伺つたんですよ、でどうぞ幾久しく御愛顧にね。」

と、嫣然と目に物言はす。

「それや全く氣の毒だつたね、しかし清ちやんはどの人氣者を、僕のやうな者が贔負にするの肩を入れるのがいが、しかし僕のやうなものでも宜いと云ふのなら、僕は清ちやんの爲なら、有ん限り肩を入れる決心だが、僕のやうなものにでも愛顧になつて下さる氣があるのか。」

と、眞面目に、且つ熱心に云つて顔を見た。

「あら、那麽事仰やる、藝人は誰方に限らず御贔負を受けなければ立つて往かないんですもの、どうぞまだ寄席へ出たばかりなんですから、是非御贔負に願ひます。それに斯う申すと何ですけれど、寄席に出まして今日が三日目ですけれど、お客さんの座敷に出ますのは、今晩が始めてなんです。」

と、初心らしく青年の顔を見て、心ばかり顔を赤める。

「然う聞いて見ると、まア／＼氣の毒だね。清ちやんは何所か大富豪の坊ちやんでも呼んだと思つたんだらうに、見る影もない青書生で驚いたゞらう。」

「僕は大富豪ぢやないが、燃るやうな熱情ものでから愛顧にせずに、つて愛顧にするさ、はゝゝ。」

と、高く笑ふて

「笑談は笑談として、實は清ちやん、私が是非會つて話したい事があると云つたのは、斯う云ふ事なんだ、まあ靜に聞いて下さい。」

と、卷莨を取出して喫し始めた。清ちやんとは無論竹本清之助であるが、青年は抑も何者であらう。

京城新報

京城電鐵に就て

韓國諸般の事物が萬事朝鮮式にして、其杜撰緩慢なるは今更言を俟たざる所なれども、吾人は爰に其漢城より龍山に通ずる電氣鐵道が其設備の不完全にして經營の杜撰なるに一驚を喫せざるを得ず、今試みに假りに南大門を發車して龍山に到らんと欲せんか其進行の遲々として緩慢なる早きは廿分乃至普通卅分の時間を越ねたる事なく人をして殆んど其會社の無責任と不熱心とに憤慨罵詈せしめざるはなし、現に記者の如きは却て此等不便不利なる機關を借らず徒歩にて龍山に到るを常とす、固より單線たるの故を以て其交點に於て他の電車と交換する事の必ずしも豫定の時間に逢着せざるべきものあらんも、而も是等は皆通事にして、其時間の常に順序に適へ秩序を追ふて無滯進步する如きは終日殆んど稀少なる一の電車去りて次の電車の來る間二十分乃至甚だしきは一時間に垂んとし、折角附待せし乘客をして空しく嘆聲を發せしめ終に徒步するの已むなきに至らしむるも然り、又孫に其乘込み車掌が韓人たるの故を以て注意を怠り、一旦乘客が電票を取上げながら後に至りて再び請求を迫り其確かに授渡せしを言ふも彼は間々喧嘩口論の末入れず終に其下層社會に一方ならざる迷惑を感せしむることあり、而も、聞く會社は之が一ヶ月の收入の甚だ多大にして二季の配當又甚だ著しきものありと云ふ

思ふに斯の如き多大の收入と又斯の如き至要なる交通機關を一手に有しながら、公衆通過の中心を占有し緩慢杜撰、群衆をして其著しき不便を感ぜしめ而も恬然として一も顧みる所なく只偏に其私腹を肥し私財を作らんと汲々たるものあるが如き、吾人は大に皷を鳴らして其非を攻めざるべからず、而も今の時や從來の朝鮮と異なり邦人の續々として入り來るもの日に多きを加ふるに於てをや

然り而して更に吾人は一言の禁ずる能はざるは彼の水道事業の設備といひ、今又此電車事業と云ひ是等公共的獨占事業を一に繫つて外人の手に委し、而も之が實蹟の見るべきものなきにも拘らず、我當局者が呆然として敢て之に顧ず、一言の其間に狹むべきものなきは吾人の常に遺憾に堪へざる所なり、不知當局者は果して如何の方案を有するや否や

東京電報

▲陛下御還御 （二十日發）

大元帥陛下には正午御歸着遊ばされたるが連日の御野立にて龍顔少しく日にやけさせられ至極御壯健の体に拜せられたり

▲伊吹進水式 （同上）

軍艦伊吹は明日吳造船所に於て進水式擧行の筈なるが同艦の排水量は一萬四千六百噸長さ四千五百(ㅡ)四呎幅員七十五呎六吋馬力二萬二千五百なり

▲歲計欠陷塡補法 （同上）

明治四十二年度以降は財政歲計欠陷の大部分は政費節減により他の三千萬圓は增稅に依ることゝなれり

▲橫貫鐵道問題 （同上）

全國商業會議所聯合會に於て元山商業會議所の提案に係る韓國橫貫鐵道急設の件、日本海直通の航路開始請願の件は宿題とすることゝなれり

▲大阪商船の碎氷船 （同上）

大阪商船會社は本冬期より碎氷船を利用し浦鹽航路を繼續する筈なり

▲韓太子の御乘艦 （廿一日發）

韓國皇太子御渡日に付き我政府は御乘艦に宛つる爲め滿州號を仁川に向け發せしむることゝなれり

雜報

伊藤統監準皇族となる

賢明を以て世界の君主中に殆んど其比儔を見ざる韓皇には今回伊藤博文公に與ふるに皇族待遇を以てせられたり因に日韓人間の噂によれば伊藤公は近々濟州島王に封せられ尋て上天せらるゝなるべしと云ふ

李完用氏の憂色

朴齋純內閣の後を承けて自ら總理大臣となり一進會の宋秉畯、趙重應等の徒を拉し來て內閣を組織し其間海牙密使事件、軍隊解散、皇帝讓位等の難問題續出したるも屈することなく此難關に當り兎に角國の首相として其地位を持續し來りしが李完用氏は一種の憂色あると其門前に訪客絕へたると何等かの消息此間に潛み居るべく察せらるゝが聞く所に依れば李完用氏憂色あるは一進會が氏に對し攻擊の態度を取りたると又た統監の信用失墜したりと云ふは一の原因なるべきか然れども皇帝の信寵に至りては果して失墜しつゝあるや否は知るべからざれど氏が近來著しく憂色あると訪問客の減じたるとに徵すれば多少此間の消息を窺知し得べく之れが事實として世間に發表せらるゝときは內閣改造の時なりと知るべし

●各大臣の祝辭

伊藤統監には今回韓皇より准皇族の待遇を與へられしを以て李內部、宋農商工部大臣を除くの外各大臣は昨日午前十時半統監邸に至り祝辭を陳べたりと云ふ

伊藤統監の隨員

來る十二月五日歸朝せらるゝ伊藤統監の隨員には村田少將、古谷秘書官、國分秘書官、小山技師、神保、小田の兩屬命ぜられたり

●參與官會議

同會議は昨日も開會されしも未だ何等決議するに至らざりしと

●憲兵派遣所設置

黃海道松禾に當分の內憲兵派出所を設置することゝなり本月末に實施せらるべき豫定なりと

●統監送別會計畫

伊藤統監は明二十三日下仁するやに聞けるが見合せとなりたるため仁川居留民有志は更に日を期して公園御便殿の一覽を乞ひ一時歸朝の送別會を催す筈なり

劇戰五時間

暴徒の死屍三十を獲

日韓兵若干名を率いて長陽郡に入りたる我軍は去る十七日午前六時頃暴徒一千名に出會せり同地は長陽郡江北面床浮と稱する暴徒は周圍の山上に三十餘門の大砲を据ゑつけ防備甚だ嚴重に構へたりしも我兵は二方面に分れ一隊は田上大尉引率し一隊は宮田曹長引卒して二方面より狹擊したるに暴徒は大砲小銃を一齊に發射し强硬に應戰せしも我突擊の爲めに遂に潰走するに至れり戰鬪は午前六時半頃より開始し同十一時頃完く擊退せり暴徒は死屍三十餘を遺棄して西北方に遁走せり彼等の服裝は軍服を着したる者七分以上にして他は白服なり我捕獲品は牛三頭馬一頭火繩銃六挺大砲八門其他雜品多數にて我兵には死傷なし

賊の禮安襲擊

十一月十二日來匪徒禮安來襲の風評盛なるを以て、同分派所春木宮地兩巡查は巡檢二名と共に警戒中の處午前五時三十分匪徒十二三名來襲したるを以て同所員は之と交戰中匪徒は同邑の東西兩方面よりも亦同時に來襲したるに依り少數の所員を以て三方面に當るを得ず先づ東方の一團に實擊を加へ之を擊退したるも他の徒は頑固に攻擊を繼續し來り且民家に放火せり所員は奮鬪の傍ら消防に力め應戰二時間の後遂に之を奉化方面に擊退せり燒失家屋六十二戶にして我には一の損害なかりしと云ふ

議政府の暴徒

十五日夜十二時頃議政府より程遠からぬ直洞の李縣雲方に暴徒約百五十名來り牛一頭及び村民張万里なる者を拉し楊州より京城に通ずる舊街道に出で京城方面に立ち去りしが張万里は一時間を經て歸來せり暴徒は舊式新式銃取交せ約半數はこれを携帶し居れり而して暴徒は加平方面に立ち去りたる形跡あり

●洪川の暴徒

洪州の東方五里に賊七百集合し居るとの確報に接し二十日春川守備隊より將校以下若干名出張せり

●暴徒嫌疑者捕縛

十五日忠淸南道藍浦分派所の手により北面內に於て暴徒の嫌疑者數名を拿捕せり

暴徒の檄文

大邱附近に徘徊せる暴徒の首領朴先達の率ゆる匪徒約七百名は三陟郡黃池里にあり不日大擧して奉化を襲擊せんと揚言しつゝありしが本月四日匪徒數名奉化郡背陽面長の家に來る面長は隙に乘し逃走したるを以て匪徒は左の檄文二通を殘して去れり

嶺左倡義士邊鶴基、血に泣いて慶北諸君子に告ぐ我韓國は日海の片隅にありと雖先王の法に遵ひ禮樂法度は闕洛諸賢を師とし衣冠文物燦然として備はり遺風餘俗唐虞三代に比すべし天に不測の變あり人に朝夕の禍あるが如く五百年の宗社罔極の變に遭ひ世家の喬臣國家の存亡を知らず豪權を賴んで門を東西に開き日露を招請して尊嚴の皇室を屢々騷擾せしめ今又海外の逆臣潛に潛請して政府を蕩乱し三千里の疆土を曲賣し二千万の生靈を奴隸となす國祚永からず民情支保するに由なく盟約して神明の助を乞ふ成敗利鈍死生榮辱問ふ處にあらず只死字の符を守らんのみ

犬豚に類する倭賊我大韓に來り肆惡一ならず而かも韓國の民は家國の轉沒を知らず銅貨の飼に甘んず讐敵と伍し國家の虛實を曉言す何ぞ亡びざるの理あらんや不日大陣來到し補算良計を以て力戰し國家の大事を圖るべし方今接戰數次向ふ處擊應せざるなく倭賊畏るゝに足らず嶺南は鄒魯の地何ぞ早起せざる泣血千萬諒燭せよ應せざれば斬賊の劍未だ鈍ならず皇天の罰必ず嚴ならん云々

大韓國は箕子の遺法以來文物燦然として備はると數千年太祖以來五百年此時に當り姦臣朝に滿ち社稷危く民心離擾す擧義の意は王室を補け萬民を保たんとするに出づ朝鮮は貧財の國なるを以て倭人の財に迷ふて生死を顧みず骨肉相爭ふに至る舟中の人皆之れ敵國の感なくんばあらず然れども倭と志を同ふする者能く久しかるを得んや

今嶺左の倡義邊某軍兵千餘名を率ひ嶺南に至らんとす万民は各邑府にある日人の數を斥候審查し大陣所に報すべし一心同力同聲相應じ倭賊を斥け國法を正し萬民を保つは美ならずや倭の斥候たるを知て大陣所に報せざるものは倭賊の同類と視るべし云々

始興農民紛擾に就て

京畿道始興郡西面の農民等は數日以前より多數所々に集會し納稅上に關し頗る紛擾を極め上京請願せんとするの情報に接したれば財政顧問部よりは本月十九日部員を同地に派遣し調查せしむる所あり該部員は同地着の上農民の代表者數名を召喚し郡守立會の上詳細に其事情を糺したるに同郡には宮內府經理院あり徵收する驛屯賭の內盤孔驛、香炭屯、鐵嶺屯、親屯、忠賢院屯、忠勳屯堤堰等の各種ありて每年經理院より派遣する收租官は舍音差總なるものを徵收員とし一切の驛屯賭を收入せしめ居りたるが同人は徵收に際し例せば規定上十斗を徵收すべきに十五斗或は甚しきは十八斗を徵收することありされば同郡の賭稅百六十石一斗五斗五合のものを五割增とすれば二百四十石九斗三斗を徵收せらるゝこととなり農民其理由を質せば是れ徵收者附加稅なりと答へ强制的に徵收を了するを常とせり然るに度支部より徵收する結稅は昨年以來稅率以外に一切の附加稅を免除せられたるにより經理院の收租官も本年よりは全然此種の附加稅を免除し農民の苦痛を減せられたき旨其筋に請願せんとするに在ることと判明せり事情此の如きは全く從來の收租官、舍音等の中飽にして不法徵收なること分明せるを以て部員は詳細に說明する所あり且つ本年度よりは幸ひ度支部に於て嚴重なる監督の下に徵稅を施行すべきに依り斯かる不法徵收あるべき筈なし農民等請願の趣旨は直に報告すべきにより一同其業務に勉勵し妄りに騷擾することなきを得策とする旨を述べたるに農民等も大に喜び此顛末を一般に告示すべき旨答へたれば部員は猶ほ能く之を懇諭し歸廳したり

愛國婦人會救護員褒賞

京城に於ける騷擾事變に際し兼て警察官の救護斡旋等に盡力したる一般總裁殿下の台聞に達し左の如く表彰せられたり

特別徵章賞狀及金時計 鶴原 [illegible]
同 同 及金時計 李 [illegible]
一等有功章賞狀 加藤 [illegible]
同 同 伯夫人 兒玉 [illegible]
同 同 國分 [illegible]
同 同 朴 [illegible]
同 同 峯尾 [illegible]
同 同 山口 [illegible]
同 同 黑田 [illegible]
同 同 三浦 [illegible]
二等有功章賞狀 男夫人 目賀田 [illegible]
古谷美代子 小松繁子 香坂 [illegible]
渡邊谷子 金 [illegible]
三等有功章賞狀
淺見八重子 市原ツキヱ子 佐々 [illegible]
三宅仲子 瀧家千代子 巨智 [illegible]
丸山タケ子 中川キヨ子 淵澤 [illegible]
長谷川百合子 熊谷ハツ子 中村 [illegible]
田中ナオ子 本多鶴子 佐々木 [illegible]
井出房子 矢野キヨミ子 久保 [illegible]
渡邊峯子 橋本敏字 松寺 [illegible]
村上カン子

●軍需品輸送

常陸軍運輸部より本日出帆すべき郡山丸にて光州守備隊行糧食十四個、南原守備隊行糧食二十二個及群山騎兵隊行糧食二十一個を輸送する由

仁川本年の貿易狀況 （續）

△九月 九月となりては韓錢前[illegible]回復し來りしも秋後に至り再び不[illegible]に復せり而して諸雜貨類の賣行も[illegible]きたるも地方の民擾尙ほ鎭定に至[illegible]剿掠を擅にするより地方在留の邦[illegible]し雜ね所々に避難するもの多く[illegible]徒の剿掠を恐て兎角仕入控への[illegible]綿及び綿布の賣行捗々しからず[illegible]したり和木綿も賣行敢て捗々し[illegible]も原品不定の爲め商館を唱へ砂糖[illegible]賣行能く相場は昨今へり一般の[illegible]如しと雖も本年は豐作の見込愈[illegible]たるのみならず例年之れより市況[illegible]て季節に入りたるを期待し漸く[illegible]みに忙はしく輸入は激增して二[illegible]二千餘圓に上ぼり前月の二倍以[illegible]米穀は端境季に拘はらず日本相[illegible]續せしのみならず牛皮は品薄の[illegible]强く弗々輸出あり籾及玄米大[illegible]新物の出廻り期に近づき相場安[illegible]至りたるを以て輸出貿易は活氣[illegible]

(甲) 輸出品

(一) 米穀

[illegible]

(二) 獸皮及獸骨

[illegible]

揚井楢藏氏自殺

[illegible]

●水野領事の轉任

[illegible]

●教科書と學部次官

[illegible]

●民間祝賀式

[illegible]

宮殿伺候者

[illegible]

●黑龍江の警備艦

[illegible]

●倫敦の金融

[illegible]

●東大俱樂部

[illegible]

●平壤の衛生事情

[illegible]

公人私人

▲渡邊亭作（警察署長） 金澤旅館へ
▲島村忠次郎（法務補佐官） 不知火旅館へ

一日一筆

▲大工 何時迄も等隱大工ぢやヤリ切れチー早く顔を賣つて棟梁になりてーもんだな

▲左官 コツちどもの商賣此れから不景氣だドヲ一つ内地へ歸つてまた出直さうかな

▲桶屋 亭主持つなら桶屋をれ持つな離れ〳〵を圍くするつて云ふが成程旨めー文句だ

▲魚屋 憚り乍打鍵腰へ突つ挿さんでから目の赤い魚賣つた事チーんだ物見て言ひチ

▲石工 金槌の川流れただこフザけたことヌカすな金槌ア俺の命は鍜で石が切れかいや

▲土方 東海道を股に掛け四國九州踏み荒し仲間に知れたレールの鐵公夕俺れの事だ

▲仲仕 ナニ旦那心配なさんな二人か三人の木葉者必ずバラして……れ目に掛けやす

▲船頭 近頃オツキリ不獵でいけチー嗚是で濁酒を……文句いふチー船底の下地獄だ

▲工夫 這んな商賣するもんぢやチー八の野郎昨日電流に出觸ハツて死にやがたなー

仁川斗量場下附請願の却下

仁川海岸斗量場使用に關する穀物協會請願に對し一昨日(二十日)午後三時半より板倉、樋口、桑野、稻田、勝村の委員全部集合調査熟議の結果左の如き決議を爲したり

該斗量場は性質上現今の通り民團に於て直營するを要すと認む

右決議に基き富田民長は穀物協會代表者を召喚して其旨を傳へ多分同協會の請願は却下さるゝなるべし

●大分縣人會 京城に於ける大分縣人會評議會梶原末太郎、古迫角次郎、清城義十郎、安藤貞市、小川勝平、佐藤牧太郎、野田廣二、小林豐藏、古城龜之助の諸氏は去る二十日の夜本町三丁目の贊化病院古城管堂氏方に會合し來二十四日花月樓に於て大會を開催する準備の協議を爲せり大會に於ては會長以下評議員の總改選をなし從來の規則へ「會員にて死亡したるものあるときは會の名義を以て五圓以内の香典を爲すべし」の一項を加入し會務を擴張して大に大分縣人の勢力を張らん覺悟なりといふ

●仁川の初霜 仁川には一昨二十日午前二時初霜あり平年に比して八日昨年に比すれば十七日晩かりき(統監府觀測所報告)

●暴徒の一人を捕ふ 南署山林洞統房洋平民無職前兵丁吳仁澤(四十)は本年八月以來京畿道抱川加平楊根の各郡に於て暴行を逞ふせし朴來秉の率ゆる民團に加はり共に民財掠奪及び殺傷を爲したるものにて客月二十三日京城微嚴閣に歸へり居りしを警務廳訊問課に於て逮捕せし處兇器を携帶するにより取調ふるに巡檢金鎭龜が本年八月十日二週間の看護歸省許可を受け歸郷の途中同月十四日楊山郡白岩市に於て三千餘名の暴徒に捕へられ擲縛亂打せられ將さに銃殺せられんとするを暴徒中の一名に救はれ辛ふじて歸宅したるの事實ありて前記吳仁澤は即ち其暴行者の一人にして其際金順檢の手帳を奪取したること判明し尚は他の暴行の事實をも自白せしを以て平理院に移送せられたり

●韓人韓人に毆らる 龍山藤脇組の雇人韓人某は一昨二十日午前十一時獸牛雇入の爲め東方約一里の洞亦といへる渡船場に至りしに船頭五六人が取卷いて汝は日本黨なりと罵り毆打して且つ所持金十圓餘を强奪せりと

●袁玄道 昨二十一日の午前六時頃倉野板根の兩巡查部長が八島山本の兩巡查と同道にて旭町を通行せしに山本旅館の隣家に於て時ならぬ人聲の喧しきより何事ならんと覗ひ見れば五六名の者車座になつて一六勝負に懸念なきを以て夫と言ひさま飛び込んで家主熊本縣平民魚住八十吉(四十六)仁川京町古物商入江次郎方傭人奈良縣平民辻本鉎之助(二十六)の兩名を引つ捕へしが他に二三人は其の場を逐電せり

●横着者 北海道函館區元町の釣谷榮太郎(二十九)といふ横着者は遠藤顯松より毛メリヤスのシャツ二十打の販賣委托を受け其の一部は賣却して代金二十九圓を京城に於て費消したること發覺し昨日拘引せられたり

●新町消息 先般新町廓の模樣を通信したが今度は各樓にある娼妓其の消息を一つ洩らそう併し野心を起さるゝ讀者あらば實に遺憾千万だがヨモヤそんなことはあるまいと思ふ扨て何樓から話そう表通りの井門支店か皆春樓か先づ第一番に飛び込んだは井門支店からとする此家には太夫が二人居るが何娼も此娼も評判程にはないけれど其動作上品な所は他の企及する能はざるとてろで到底京城の田舍者に向くまいと見た君江、浪江、房江、信江など若手もあれど夫々好チヤンを掴へ居るそうだ中にも信江の如きお里がほのめく所一寸小役人向きさでも云ふか皆春樓は長崎のバイ言葉と江戸言葉との二派あるバイ派の大將は小光、ツウナツの大將は新輸入の小町女郎にて兩々相讓らざる有樣にて毎日毎夜暗鬪なしつゝありと人氣は田舍臭き兄京城の兄さんに向くそうだ月下は松子といふ山の大將として親不孝の小文が頑張りて頽勢を挽回せんと熱心に媚賣を營み居るとか松榮南山太升なごはトテも話にならぬ第一樓本店は混血女郎が片言交の日本語にて愛嬌を振り蒔く傍には小中將婆さんが新聞の記事を見て怒り出すと花町小女郎や玉琴の瘦ギスが同情するなど今や亂痴嬉の所であつたれ隣の支店は雀共が足向けたら汚れから覗かなかつた其隣の京城樓は床の菊も何やら店の景氣を思案するらしく凋み勝だつたが返り咲き締子が大變人氣を回復したとかで太意張りして居たと頓子婆が大邪な近藤さんが浮氣するのを苦惜しがり居たと師子が臭い息を吐き藤子さ何かヒソ〳〵と囁ぢり居たが仲居の婆さんが登りの一階に腰を拔しながら攀に歸つた(雀)

●灸二つ 明治町三丁目居住京城郵便局雇 神奈川縣平民及川鶴次郎(五十)は去る十七日本町二丁目金田商店の前街路に放尿したるを以て二十錢の科料▲旭町一丁目左官職 兵庫縣平民左官庄次郎は自宅前街路に多數の竹を排列し通行人の妨害をなしたるより同一圓に何れも處分せられたり

●本町座の北村劇 本町座に於ける北村劇本夜の狂言は大阪毎日新聞所載菊池幽芳氏作『乳姉妹』にて其役割は左の通り

綾小路公任、當伯久米金一郎(井上)でんがく屋吉三(新田)榮守夫人百合子(西本)東條中將(大島)南里照子(桂)田川れ濱、松平昭定(横山)鈴川伯爵(谷)田川君江(吉岡)車夫濟太(中澤)松平昭定(保岡)召使れ初(小泉)平間久馬、戸田伯爵(青木)狹川外交官(北山)新聞記者三室滋(三木)藤川喜代子(三國)田川房江(三井)刑事武田孝(清水)松尾中尉(森)冒險家高濱勇(北村)

紅筆日誌

見返り柳

十七日(晴天) 今朝十時頃朝餉をしたゝめ居りしに、ガラ〳〵と俥の音のせしよと聞もなく仲居の來りて〇〇さんがお出でとの言葉に、飛び立つばかりの思ひして急ぎ座席にいたりさきつ日の深き情けとお金のことも謝せしに、其の方はカラ〳〵と打笑ひさせお前の心の堅過ぎるには驚く其のやうなことにて朝鮮三界迄稼ぎに來たとて何んの金の儲かるものぞと申されしが、妾の飽迄も謂れなき客より貰ふ由のなきを述べしに又もや打笑ひソンナラ今にも人の女房となりしときは何うする氣ぞと飽迄も妾の未通を揶揄はれにき、ソレハさうと御返杯は何うせしぞと傍の仲居に嗜まれしより、ハツト氣が附き一寸口に當てゝ密かに杯洗に流さんとせしをお客にさがめられて此度びは其儘さして波々と差されしより如何はせんと途方に暮れ仲居に助けもらはんものとタツテ縋れど好いた殿御のうれしき杯、差すさ差さぬは勝手なれど、ソレでは女冥利にあまるさいふものと体よく斷られしにぞ今は己むなくグツと飲み乾し返杯せしに是は感心上出來とのお客のお褒、序にもう一ツ差さんといふを今度は心より辭退しにき、もど〳〵香を嗅ぐさへ嫌な酒を無理に侑められしことゝて、醉は一時にカツと發して、耳は次第に鳴うなり目は廻るやう、トテモ座に堪へざるにぞ憚りにさいつはりて其場を外し流しにいたりてツムリをひやせしによりて氣分も晴々せしより再び座にさ返れば、如何に座席は大きう賑やかになり二三人の藝者衆や半玉の來りて謠ふやら舞ふやらの騒ぎオヤ此れは初めまして何分此先きともよろしくとの中なる年增藝者のワザと改まりての挨拶ドウカお一ツと差出す杯の馴れし手振、イ、エ至ツて不調法よと喉迄出たれど初に差されし杯ゆゑ辭退するもあしかるべきにさホンノ少しと杯持つ手を擧げたれど、又も波々と差されしには心よりホド〳〵しにき、折柄或る藝妓の玉を轉ばすが如き喉にて謠ひ居りし大津繪の絃の調子は俄に變りてサー今度は誰かの番よとアレか是れかと囁やき居りしが仲居はダシヌケに『今度は八重垣さんの番だよ』と頻りに勸むる傍より『持つてました』とのお客の言葉、イヱ、妾しは何も出來ませんよと申譯せしも、なか〳〵聞き入れられず、已むなく起つて豫て幼なき時習ひ覺えし雛汲みの一曲を舞ひにき、『相生傘の末掛けて』の曲にいたるや、誰れかは知らぬ發にて『八重垣さんも今にさうなるのよ』との言葉を聞きしときは思はずハツト顔を紅らめにき。